

# 育子屋NEWS

2021.9.1

(お子さんが大人になったとき、社会で活躍できるヒントがいっぱい)

## 予備校の名物講師、怒りの「愛」の授業

～学生の中に身につけておくべきなのは・・・～



代々木ゼミナールの名物講師と言われている荻野鴨也先生は、その風貌や独特な話し方から「数学ヤクザ」などと呼ばれているそうです。(恐らく入れ替わりの激しい予備校講師として、キャラ作りとしてされている部分が大いだと思いますが)

## 授業を中断して話し始めたことは・・・

ある日の講義中、いつものようにチョークで黒板に数式を書き込んでいた荻野先生ですが、その手を止め、生徒の方を向きこう語り始めます。

『あのね、ちょっと言いたいことがあるんだけど聞いてくれるか？』

予備校の講師として言っちゃいけないことかもしれないけどね、俺の原動力って愛情なんだよ。それ以外ないの。だからたまにしか来ない生徒とか平気で遅刻してくるヤツとか全然受かってほしいとは思わないんだよね・・・。

(ある生徒を指さし) だからお前には来てほしくない。時間を守れ。言っている意味が分からなければ講座を変更してくれ!』

そして後日(恐らく次の週の講義後だと思いますが)、荻野先生は前週に注意した生徒に再度注意した後、受講生全員に向かってこう話し始めます。

『先週も同じことを言ったよな?5分前に来いと言った。でもお前は守らなかった。』

「お金払ってるから何をしてもいいんだ、遅刻してもいいんだ」って思ってるなら来ないでくれ。俺は生徒を客だとは思っていない、残念ながら。俺にとって生徒は生徒であって客ではないん

だ。だから守れないんだったら他の講座に移ってくれ。

守れるんだったら 5 分前に来い。他の用事をすべてなくして、周りの人のために 5 分早く来るんだ。言ってる意味わかるか？

お前のためじゃない、周りの人のために行動しろと言っているんだ。

君らは今どこに行ってもお金払ってるんだよ。だからワガママが通るんだ。でもお前が社会に出て、金もらう立場になった瞬間、誰もお前のことなど相手してくれなくなるぞ。

だからそうならないように、金払っているうちにまともな人間になるんだよ！

いいか、自分のことより隣に座っている人のことを考えるんだ。』

## 「ぶっちゃけ社会に出たら・・・」

また、別の日にはこのようなことを話されていました。

『君らがオギャーと生まれて、今きりがいいところで 20 歳としましょうか。

今までの 20 年間というのはテストで良い点を取るとエライ！って評価がその人のほとんどすべてを占めていた時代ですよ。ですがこれからの、仮に 80 歳まで生きるとして残りの 60 年間はそうではなくなります。

例えるなら通信簿を開いたとしましょう。20 歳までは左側の「数学が 5」だとか「英語が 4」とかが重要でした。でも残念ながらそんな能力は今後何の役にも立ちません・・・。

ここからの残りの 60 年は右側の部分が重要になってきます。何て書いてありましたっけね？よく覚えていませんが「整理整頓が良くできる」「人にやさしい」「根気強い」「リーダーシップがある」「協調性がある」でしたかね・・・？

仕事をする上で必要なのは左側の能力ではありません。右側の能力です。

受験生なんかやっていると、左側が大事だという観念になってしまう。

まあ、大学の4年間はいいんですよ。何やったっていい遊園地みたいなもんなんですから。だけど大学出て職場に出た瞬間に、ここで全くなんの役にも立たない人間がひとり生まれるわけですよ・・・。

数学科出たからって微分積分をしろと言ってくる上司はいないし、英語の下線部を和訳する商社ありません。マツモトキヨシでモル計算している人いないでしょ？

薬局で言えば、そんな計算ができることよりも「薬の知識」と「思いやり」ですよ？

例えばおじいさんがいつものように薬をもらいに来たけど、なんか最近やつれてる。これは先生に診てもらってからの方がいいんじゃないか・・・、ちょっと薬を弱くした方がいいか・・・、胃腸薬も出した方がいいんじゃないか・・・とかそういうところが大事になってくるわけですよ。

こんな風に、これからは右側の能力が大事になってくるんだけど、右側の能力伸ばすのって数学の偏差値を75にするよりもずっと難しいですよ。』

(※ 成績表は学校によって異なるので、左側、右側が当てはまらない場合があります。小学校の場合は前述の左側の能力は「学習の記録」を、右側の能力は「行動の記録」を表しています。後述も同様。)

## 左側の「認知能力(IQ)」と、右側の「非認知能力(EQ)」

NEWSでも今まで何度も書いてきましたが、テストの点数、5段階評価のように数字で表すことができる能力を**認知能力**、それに対して点数や数値で表すことのできない能力を**非認知能力**といいます。

なので、認知能力を伸ばして「何人合格者を出したか」を求められている予備校講師がこのような話をされているのには、正直驚きました。

『人生で成功するかどうかは「非認知的能力」がどれだけ高いかに関係する』

と主張するノーベル経済学賞を受賞されたジェームズ・J・ヘックマン氏が興味深い調査結果を報告されています。調査対象者の幼児が40歳になるまで追跡調査した結果、非認知能力(EQ)が高い対象者は

『収入が多く、持ち家率が高く、生活保護受給率や逮捕率が低く、仕事を辞める率が低い』

という結果となったのです。

慶応義塾大学の教授、中室牧子氏も「**非認知能力が人生の成功を左右する**」と仰っています。中室氏いわく、これらの能力は机に向かって一人で身につけられる能力ではなく、親や教師、友達とのやり取りの中から学ぶものだと言っています。

学術的な呼称	一般的な呼称
自己認識 (Self-perceptions)	自分に対する自信がある、やり抜く力がある
意欲 (Motivation)	やる気がある、意欲的である
忍耐力 (Perseverance)	忍耐強い、ねばり強い、根気がある
自制心 (Self-control)	意志力が強い、精神力が強い、自制心がある
メタ認知ストラテジー (Metacognitive strategies)	理解度を把握する、自分の状況を把握する
社会的適正 (Social competencies)	リーダーシップがある、社会性がある
回復力と対処能力 (Resilience and coping)	すぐに立ち直る、うまく対応する
創造性 (Creativity)	創造性に富む、工夫する
性格的な特性 (Big5)	神経質、外交的、好奇心が強い、協調性がある、誠実

※上の表は中室氏のまとめた、「人生の成功を左右する、非認知能力リスト」

簡単に言えば、成績表の左側は「結果」、右側は「過程」の部分と言い換えられます。

私たちは正しい「過程」で、良い「結果」を出してこそ意味があると考えています。  
すなわち「**非認知能力**」をしっかり伸ばした上で「**認知能力**」でも**結果を出すのです**。

毎月お送りしている NEWS は、将来は上記のような**非認知能力が大事です**と伝えるために書いています。**子供たちと関わる指導者や親が、数字で表されるテストの点数や成績だけに一喜一憂せず、長期的に非認知能力を伸ばそうとする姿勢が必要です**。

(そうでないと 20 歳から 80 歳までの 60 年間、我が子が社会で苦しむこととなります)

ご家庭でも今後は意識的に**成績表の行動の記録を注意して見てあげるようにして下さい**。そして、「結果」よりも「過程」を大事にする声掛けを心がけて頂きたいと思えます。そうすると我が子の見方がガラッと変わるかもしれませんよ。

# 「非認知能力」って知っていますか？

みなさんは、学生の中に身につけておくべき力って何だと思いますか？  
計算力？国語力？それももちろん大切ですが、もっと大切なものがあります。

## 通信簿の右側、しっかり見ていますか？

学生のみなさんは、学期が終わるたびに毎回「通信簿」をもらいます。  
みんな左側の数字を見て「成績が上がった！」「今回はダメだった・・・」  
などと一喜一憂（喜んだり落ち込んだり）していると思います。

でも、通信簿の右側のページもしっかり見ていますか？

専門的な言葉で言えば、通信簿の左側の評価を数字で書いてある方が  
「認知能力」、右側の部分が「非認知能力」といいます。

学生の間は通信簿の左ページの「認知能力」ももちろん大事なのですが、  
将来大人になってから必要な力は、右ページの「非認知能力」に詰まっ  
ているのです。

これからは左のページの数字だけに一喜一憂せずに、右のページもしっ  
かりチェックして、将来活躍できるかっこいい人になってくださいね。



偉人の名言

「人生で成功するかどうかは「非認知的能力」が  
どれだけ高いかに関係する」

ジェームズ・ヘックマン ～ノーベル賞を受賞した経済学者～

自分の部屋の目立つところに貼って、読み返すようにしましょう。